

## 全労金2014春季生活闘争ニュース第23号

《合意速報No.10》

### 長野労組が金庫との交渉を妥結しました！

長野労組は、3月25日、金庫との団体交渉において、交渉の妥結を確認しました。内容は、①パート職員の賃金は、現行通りとする。なお、職員各層における働き方や評価・待遇等、全般にわたり、人事・賃金制度の見直しを検討しており、昨年度の合意事項である無期雇用の実施に向け環境整備をする方向で取り組みを進めているため、あわせて取り扱う、②正職員の一時金は、4.6ヵ月＋20,000円（要求は4.7ヵ月）、③準職員の一時金は、4.2ヵ月＋20,000円（要求は4.7ヵ月。昨年実績は4.0ヵ月＋30,000円）、④パート職員の一時金は、1.2～2.7ヵ月（要求通り。昨年実績は1.0～2.5ヵ月）、とするものです。

団体交渉で金庫からは、「労組の要求の背景は十分に理解できる。一方で、この回答が現状の精一杯のところである。経営として、今が良ければそれで良しというわけにはいかない。会員・職員のためにも、労金はこれからも生き残っていかなければならない。労金は幅広い業務を行うことはできず『コア業務』に限定される。だからこそ、今ある事業をいかにスリム化し、利益を出していくかが課題である。そのために、職員一人ひとりの頑張りが欠かせない。経費について、大幅な削減を行っていく。金庫内部はもちろん、会員・理事・運営委員にもお願いしていくことになる。この厳しい環境下にあるからこそ、全職員が一丸となって乗り越えていかなければならない。労金はまさに『人』あってこそである。今後とも人材を大切にしていきたい。春闘交渉について、議論を重ねるのは必要であるが、交渉回数を重ねて、都度、金額を引き上げていくやり方については、今後、事務局で検討していただく必要があると考える。金庫は、回答数値等を決して小出しにしているのではなく、その都度、精一杯の回答を行っている。今後とも、組合員の皆さんには、さらなる奮闘をいただくことをお願いしたい」等の見解が表明されました。

松井闘争委員長は、「連合方針では、ベア要求が示されていたが、あえてベア要求をせず、格差是正を最重要課題として要求した。『要求実現宣言』にて、パート職員が職場にとって不可欠な存在である旨の切実な声が多数寄せられた。その声に応えるべく、強い思いをもって交渉に臨んできた。パート職員の賃金改善に対する回答については、継続協議を行っていきたい。一時金は、収益が厳しい中、アール・ワンシステムへの移行を含めて、組合員は最大限奮闘してきた。金庫にも現状での最大限の数字を示していただいたと考えている」等を表明しました。

なお、単組は、①パート職員の賃金改善は、終始、金庫からは労組の要求に対する理解と明確な考え方が示されなかったが、「今春闘の要求主旨については理解する」「パート

職員は労働金庫に必要な職員である」という考えが引き出せた。また、「今後1年間で人事・賃金制度や働き方全般の見直し等とあわせて協議する」旨の「確認書」を締結することができた、②正職員の一時金は、要求に近い回答を引き出すことができた、③準職員の一時金は、昨年実績 4.0ヵ月に対し、正職員との格差是正分として 0.2ヵ月を上積みした回答を引き出せた。また、賃金改善と同様に、「今後1年間で協議する」旨の「確認書」を締結することができた、④パート職員の一時金は、要求通りの回答を引き出せた、等から交渉の妥結を判断しました。

\*合意単組：9単組（3月25日21時20分現在）

静岡・北海道・北陸・中央・中国・セントラル・東海（金庫・関連）・四国  
長野

以 上